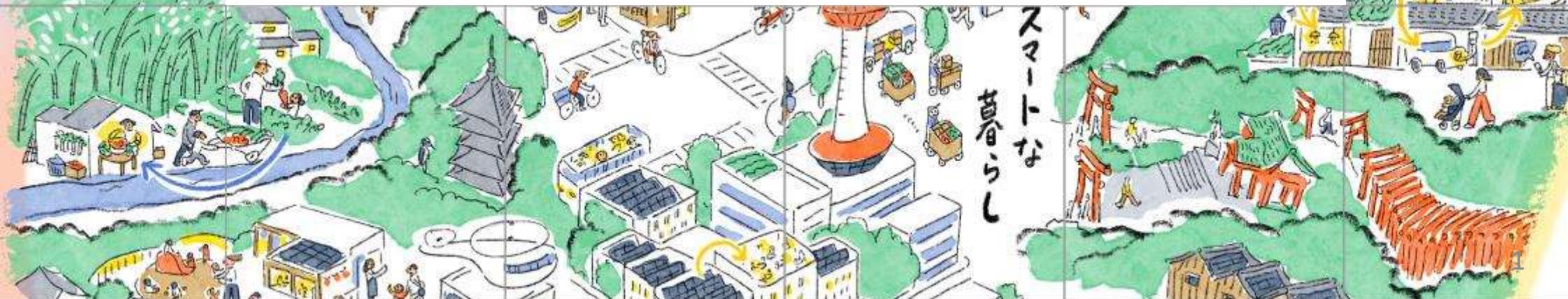




# 使用済衣服回収・循環システムの構築と 市民への普及啓発 ～京都の実践～



京都市環境政策局地球温暖化対策室



# 脱炭素ライフスタイル推進に向けた京創ミーティング



- 2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、市民、事業者等で構成する「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」を発足。
- 共有すべき脱炭素ライフスタイルのビジョンを構築し、2030年までに市民が実践するアクションをリスト化。

京都の自然と共生する文化やしまつのこころを礎に  
自分らしい持続可能な暮らしの選択で実現  
するカーボンニュートラルで豊かな社会



ていねいな暮らし



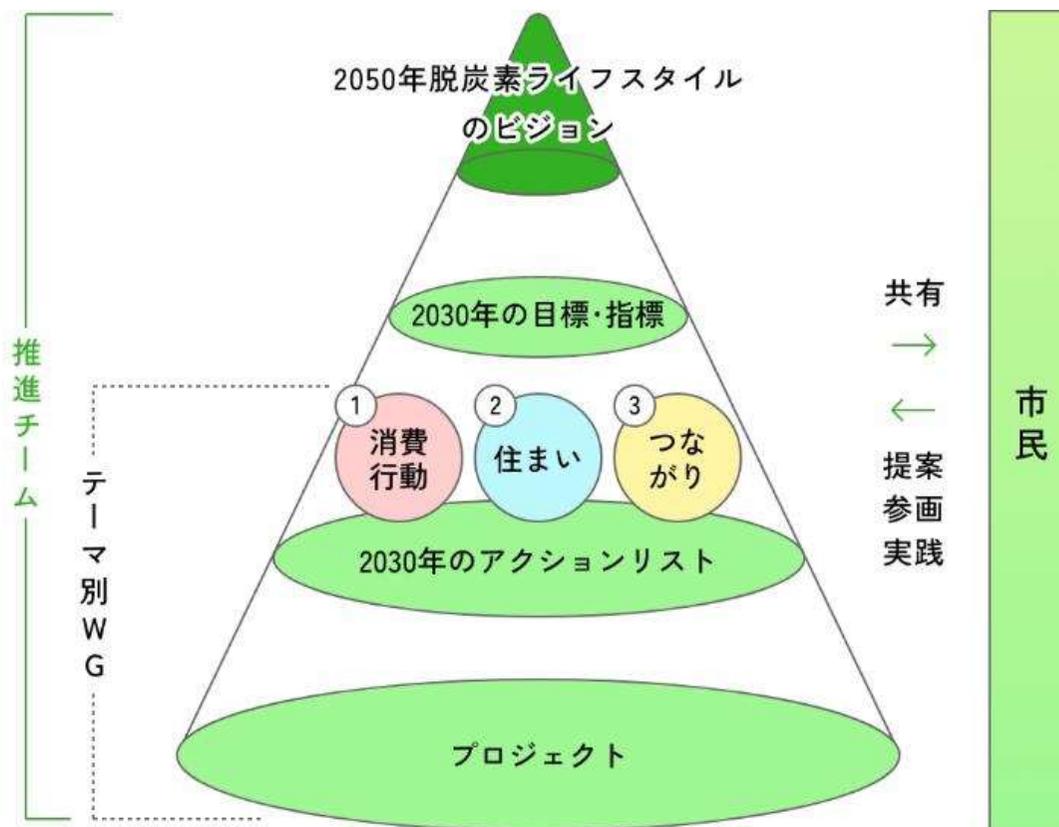
スマートな暮らし



結う暮らし



(京創ミーティング議論の様子)



# ライフスタイル転換の仕掛けづくり



- 京創ミーティングに、「消費行動」「住まい」「つながり」の3つのテーマ別WGを結成
- 参画するメンバーがビジョンやアクションリストに基づき、市民がアクションを実践し、ライフスタイルをよりCO<sub>2</sub>の排出が少ないものに転換していく仕掛け(プロジェクト)を創出・実証  
※京都市の委託事業ではなく、ビジネスとして採算をとりながら持続可能な形で運営できるものを目指す

市民運動的に広がることを目指す

## 実証に進んでいるプロジェクト



産地を巡る循環ツアー



学生寮断熱ワークショップ



使用済衣服の回収&循環プロジェクト



環境配慮型農業の実践



脱炭素ツーリズムHUB



レスキュー野菜の地域での販売



生ごみ堆肥の回収&講座&京都祭コインCOMO

# 使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」



- リデュース、リユース、リサイクルの習慣を若者文化の中に醸成することを目指す連携プロジェクト
- 家庭で不要になった衣服の回収BOXを設置し、再利用可能な衣服を販売するなどして、市内で循環させるプラットフォームを立ち上げ

## 【主催】

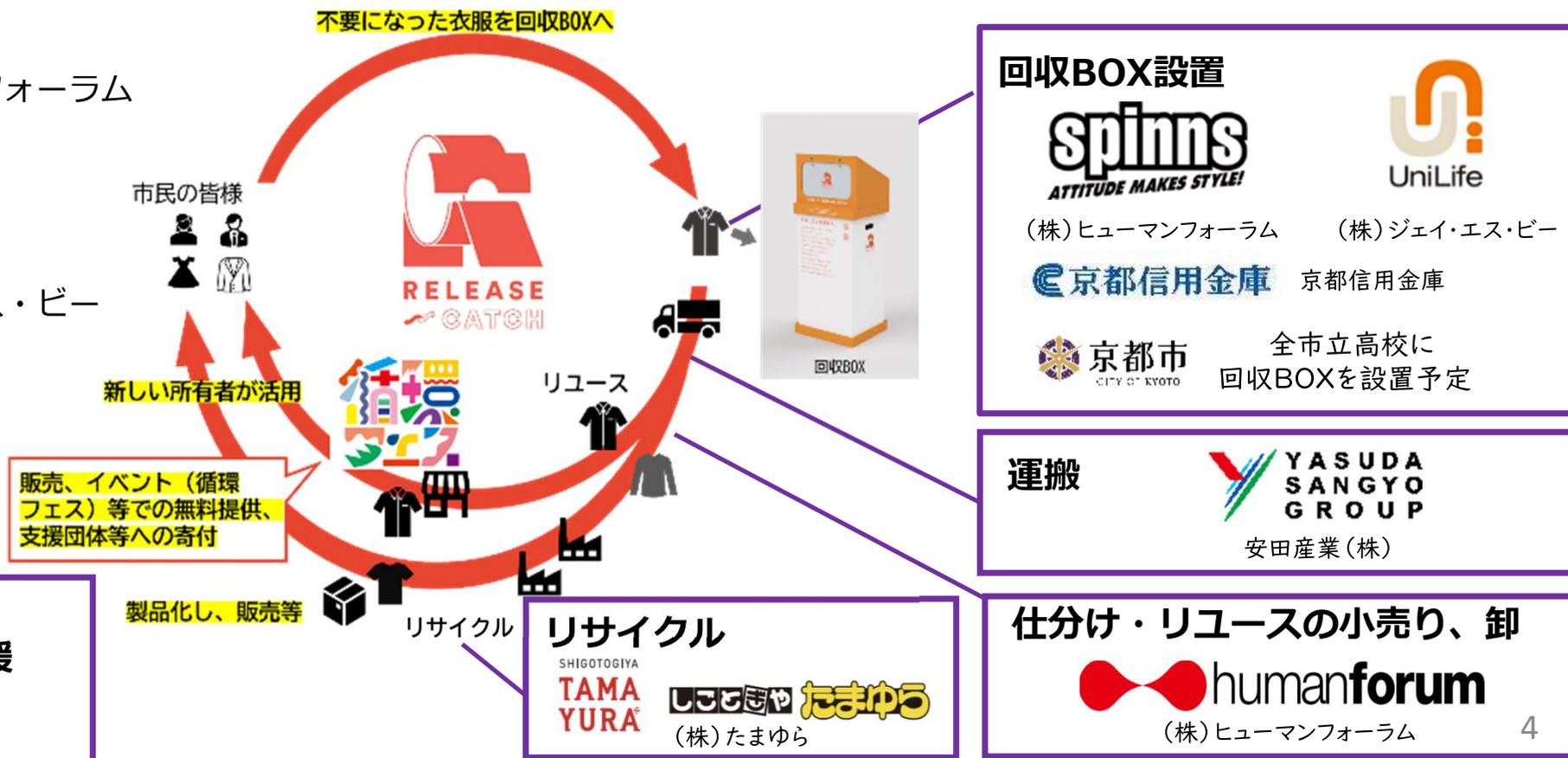
- ・(株)ヒューマンフォーラム
- ・京都信用金庫

## 【共催】

- ・京都市
- ・安田産業(株)
- ・(株)ジェイ・エス・ビー

## 【パートナー】

- ・(株)たまゆら



# プロジェクトの概要



回収開始日 令和4年9月13日（火）

回収BOX  
設置個所

- 全161箇所（市内57箇所） ※令和5年2月末時点
- ・ 京都信用金庫の本支店等
  - ・ (株)ヒューマンフォーラムが運営するSPINNS京都本店、mumokuteki京都店
  - ・ (株)ジェイ・エス・ビー本社、入居者を対象に市内学生マンション
  - ・ 今後、全市立高校（9箇所）に設置予定

回収品目

下記の回収できない品目を除く、**衣服全般**

<回収できないもの>

靴、カバン、アクセサリ類、帽子、マフラー、下着、肌着、靴下、濡れた衣服、カビの生えている衣服、汚れ・破れ・毛玉が多く付いている衣服、作業着、制服、布団、毛布、カーテン、ぬいぐるみなど

ホームページ

RELEASE⇔CATCHホームページ <https://release-catch.com/>

効果検証

回収した使用済衣服の量を計測

その他

京都市は、ジャパン・サステナブル・ファッション・アライアンスのパブリックパートナーに自治体として初めて参画。



(令和4年9月5日共同記者会見)



(回収BOX)

# プロジェクトの概要 | 仕分け



↑回収BOXに設置した  
リネンバッグを倉庫に運搬

## リユース可能な衣服

10カテゴリーに分類し、その後値付け  
(500円/1000円/1800円以上)

【レディース】

ボトムス、スカート、ワンピース、  
トップス春夏、トップス秋冬

【メンズ】

ボトムス、トップス春夏、トップス秋冬

【キッズ】

トップス、ボトムス



↑リユース可の衣服

## リユース不可の衣服

今後、国内リサイクル等へ



↑染み等でリユース不可の衣服

# プロジェクトの概要 | リユースの小売り



- SPINNS VINTAGE店舗（国内外の古着をメインに取り扱う）で令和5年2月～販売開始（全国6店舗）  
→今後、他小売店や卸等へ販路を拡大する
- ブランド品等の一部商品は、メルカリで試行的に販売（※）  
※若者支援を行う認定NPO法人D×Pが出品し、ヒューマンフォーラムが売上の67%を同法人へ支払い



SPINNS VINTAGE浦添PARCO CITY店



メルカリ出品用に仕分けられた衣服

# 「循環フェス」の開催①



- ・「RELEASE⇔CATCH」の取組を周知するため、市内で回収した衣服等の無料提供（1人3点まで）や、衣服の回収、リメイクやリペアのワークショップなど、自身が循環の輪に参画していることを実感することで、新しいライフスタイルを提唱するイベント
- ・大学生（十数名）が企画運営に参画

## ●開催実績

- ・ 7/3 1 循環フェス@市役所前広場（参加者：4,500人）
- ・ 1 1/2 7 循環フェス@梅小路公園（参加者：12,000人）  
時間はいずれも午前10時～午後4時

## ●効果検証の方法

- ・ ¥0 Marketによる使用済衣服の回収量、持ち帰られた衣服の量を計測
- ・ 参加者へのアンケート（¥0 Marketの使用済衣服持ち帰りの条件）

## ●京都市の協力

- ・ プロジェクト創出・実証支援（コーディネータ支援、支援費）
- ・ 広報支援、市立高校や市内大学への周知協力
- ・ 会場の電源車として燃料電池自動車等の貸出



<https://junkan-fes.com/>



（会場の様子）



# プロジェクトの成果①



## 【回収量】

**6,572kg (26,288着)**

## 【取組によるCO2削減量】

**100.1t-CO2**

・使用済衣服の廃棄に係るCO2削減量：**9.6 t-CO2**

※ 合成繊維割合63.6%×排出係数2.287(kgCO2/t) × 衣服の回収量(t)

・新規衣服の製造に係るCO2の削減量：**90.5 t-CO2**

※1着0.25kgとして計算

※ 新製品の製造に係るCO2排出量25.5(kg/着) × リユースした衣服量(着)

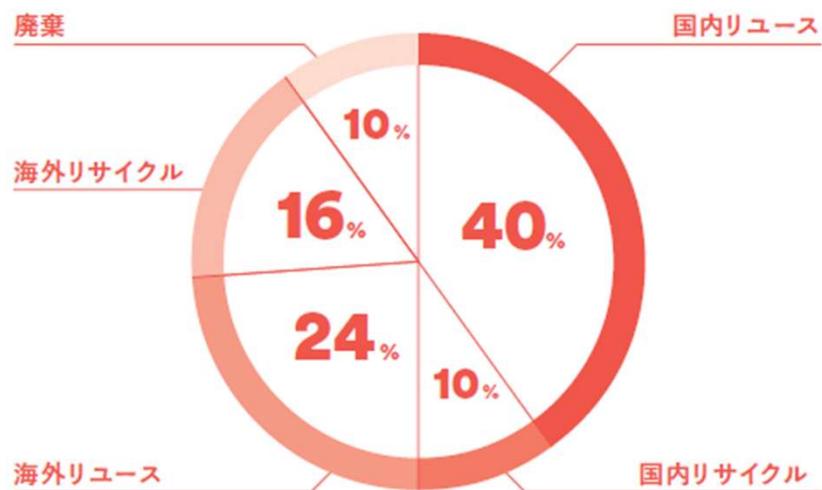
(令和4年2月末時点)

		参加者数 (人)	回収量 (kg) [着数]	持ち帰り量 (リユース量) (kg) [着数]	使用済衣服の 廃棄に係る CO2の削減量 (t-CO2)	新規衣服の 製造に係る CO2の削減量 (t-CO2)	CO2削減量 (t-CO2)
RELEASE⇔CATCH		-	4,593kg [18,372着]	-	6.7	0	6.7
循環フェス	7月31日開催 @市役所前広場	4,500人	679kg [2,716着]	400kg [1,600着]	1.0	40.8	41.8
	11月27日開催 @梅小路公園	12,000人	1,300kg [5,200着]	487.5kg [1,950着]	1.9	49.7	51.6
計		<b>16,500人</b>	<b>6,572kg</b> <b>[26,288着]</b>	887.5kg [3,550着]	9.6	90.5	<b>100.1</b>

# プロジェクトの成果②

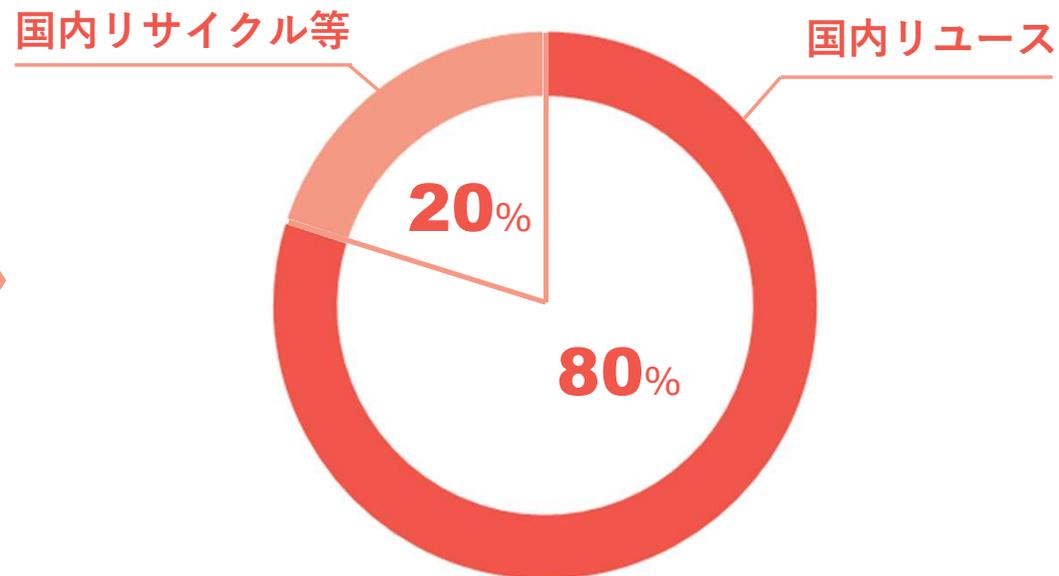
## 【回収した衣服の活用方法】

＜開始時の想定＞



京都市回収BOXプロジェクト、  
回収した後の服の行方のイメージ(360トン/年)

＜実績（仕分け段階での活用先の想定）＞



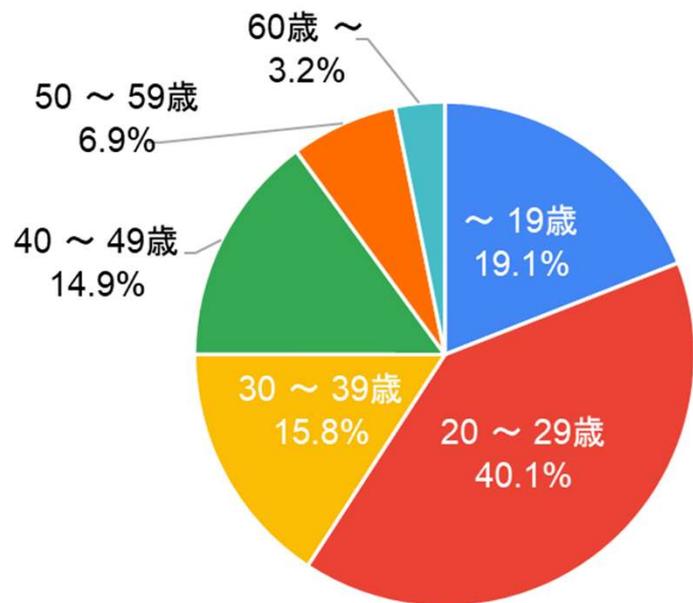
回収した衣服（約6.5t）

# 市民の意識変化① | 若年層が多く参加

- 「循環フェス@梅小路公園」参加者へのアンケート  
¥0 Marketで衣服を持ち帰った方を対象に実施：回答数969件

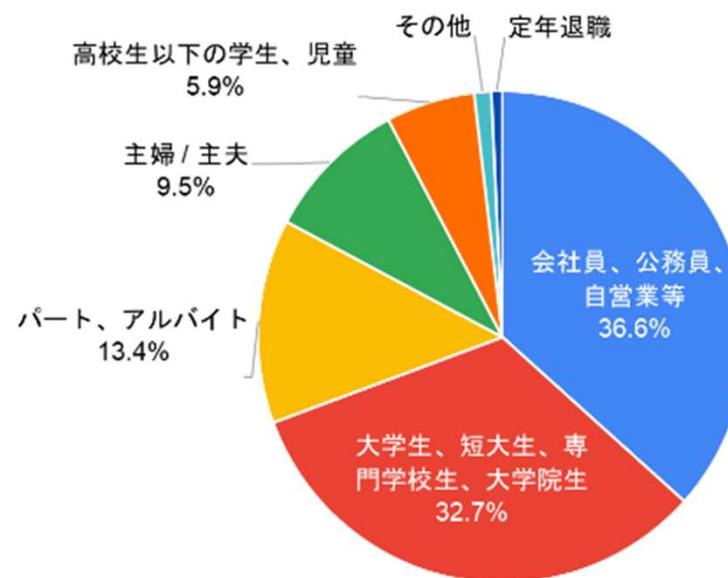
## 【回答者の属性】

### ・年齢



約6割が29歳以下の若年層

### ・職業



大学生等、会社員等が多い

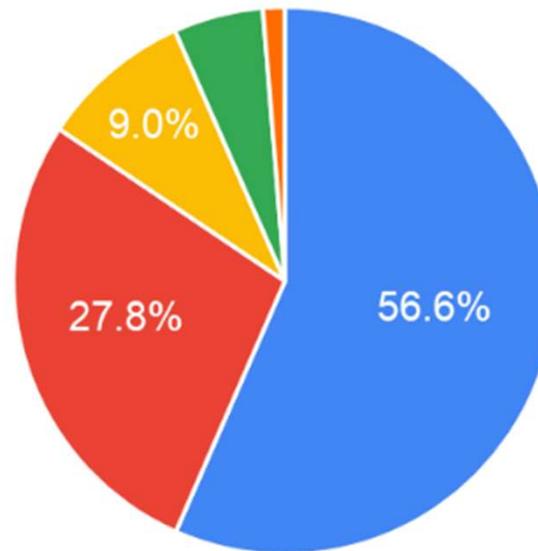
## 市民の意識変化② | 洋服の手放し方に困っている人は多い

Q) 洋服の手放し方に困った経験はありますか？



76.5%が洋服の手放し方に困った経験があると回答

Q) 「はい」と答えた人の理由は？ (回答数：767)



- まだ着られるのに勿体ない
- 可燃ごみで捨てる罪悪感がある
- リサイクルショップの買取りにいいイメージが無い
- 市や区など、自治体の回収場所が遠い
- その他

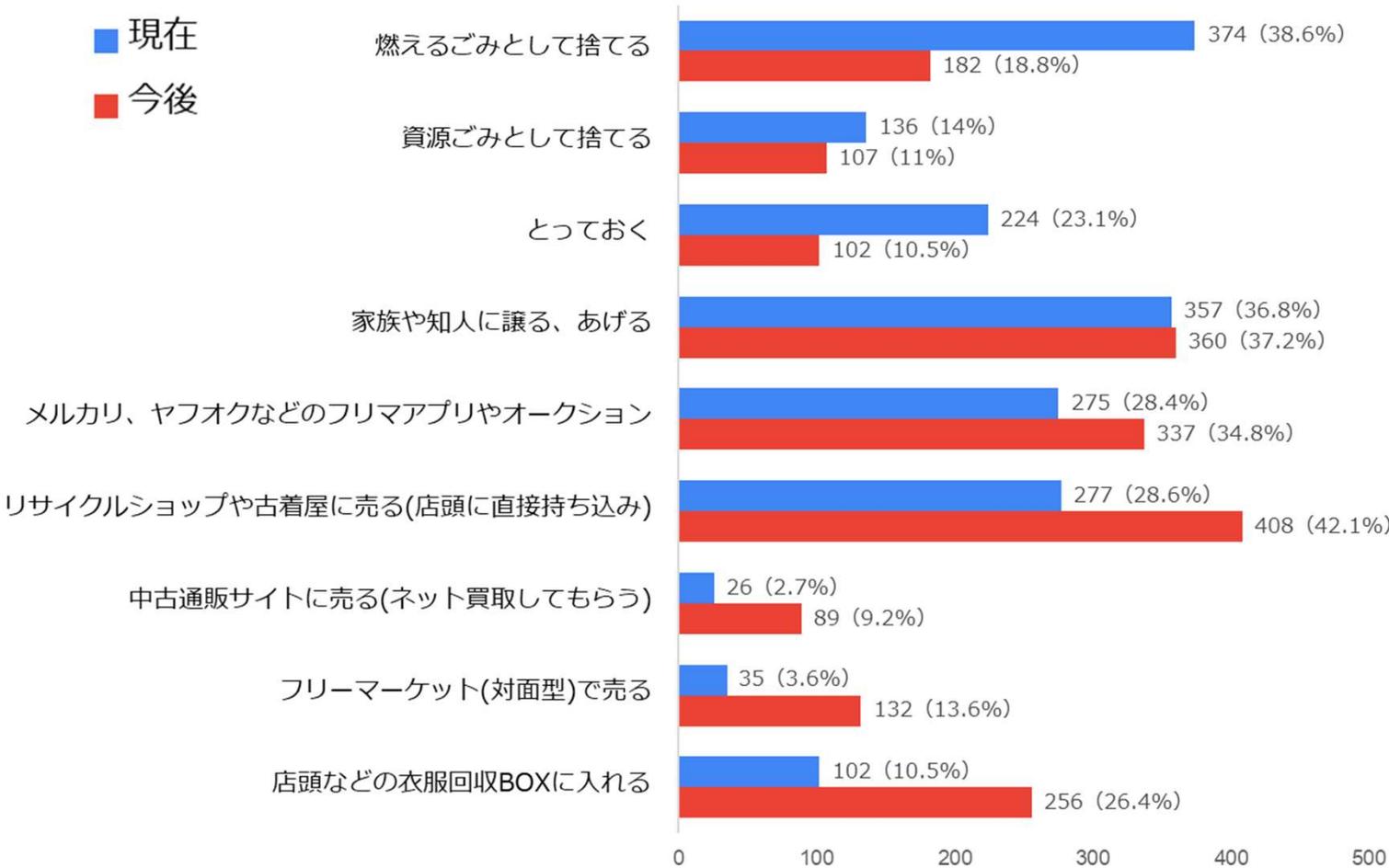
・まだ着られるのにもったいない  
・可燃ごみで捨てる罪悪感がある  
が合わせて**84.4%**

# 市民の意識変化③ | 捨てる、から、回収・循環へとシフト



## 【イベント参加前後での意識の変化】

Q)着なくなった服はどうしたいと思いますか？（現在と今後を質問。複数選択可）



### 【減少】

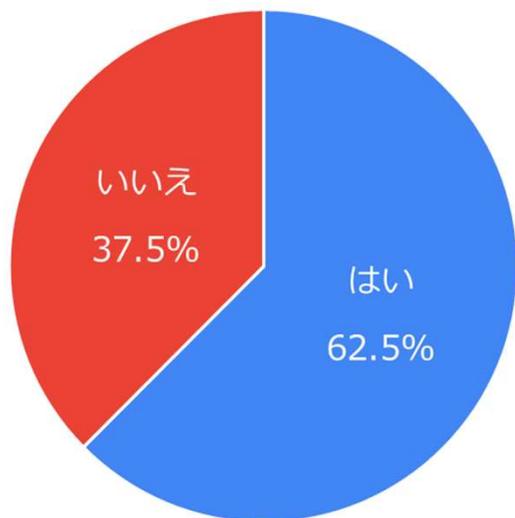
- 燃えるごみとして捨てる (▲約20%)
- とっておく (▲約13%) など

### 【増加】

- 店頭等の衣服回収BOXに入れる (+約16%)
- 古着屋等へ店頭持ち込み (+約14%) など

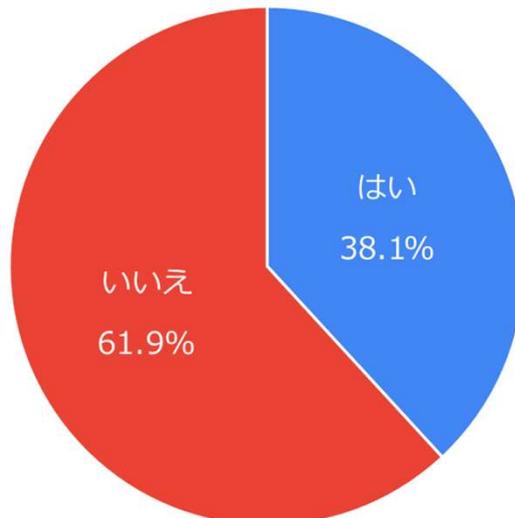
## 市民の意識変化④ | 回収・循環ルートへの高いニーズ

Q) ショップなどに設置されている衣類の回収BOXの存在を知っていますか？

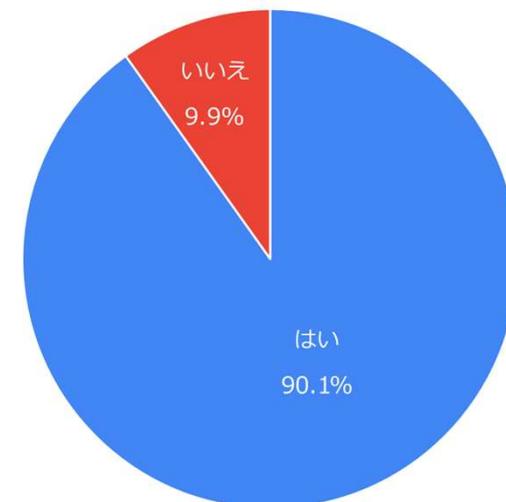


62.5%が「回収BOX」を知っていると回答。  
一方、実際に利用したことがあるのは38%にとどまる。

Q) 「はい」と答えた人は、実際に利用したことがありますか？ (回答数: 682)



Q) 古着として再利用されることを目的とした回収BOXがあれば利用してみたいですか？



90.1%が再利用を目的とした回収BOXを利用したいと回答。

# 普及啓発① | 市立中学・高校での環境教育



## 市立中学校での出張授業

令和5年2月1日（水）に、SDGsに関連した総合学習の一環として、生徒7名を対象に「RELEASE⇔CATCH」の取組を紹介する授業を実施。

（内容）

- ・ RELEASE⇔CATCHの取組紹介
- ・ 生徒の取組発表、質疑応答
- ・ 回収した衣服（生徒等が回収した衣服、RELEASE⇔CATCHで回収した衣服）の仕分け作業



（授業の様子）

## 市立高校への回収BOX設置を通じた取組

- ・ 令和5年4月以降に全市立高校（9箇所）に回収BOXを設置。
- ・ 設置に合わせ、本プロジェクトの趣旨説明を兼ねた出張授業の実施やHRや総合学習等の時間を活用した環境教育を通じて、取組への参画を促す。



（回収した衣服の仕分け）

# 普及啓発② | ワークショップ・情報発信



## 市民ワークショップ等の開催

市民参加ワークショップや市民ライター養成講座の開催を通じて、脱炭素ライフスタイルの自分ごと化を図る。

(ワークショップの様子)



(市民ライターによる記事)



### 「旬」で時間を止める

「保存食しんぼ」は収穫期に大量に採れる食材を、手づくりで加工し「旬」を味わう話題の保存食として販売する店。オーナーの増本優輝さんが知り頃、増本さんの祖母が、畑で採れた野菜や果物を漬物などの保存食にしていたことが原点という。季節ごとに入れ替わる漬物は、ジャムをはじめ「パセリと人参のグリーンソース」「自家製いちじくマスタード」、鮮やかな黄色が目を引く「練り柚子塩」など、青果野菜が使われるほか、スパイスが使っているものも。幼い子のいる家庭では、子どもに合わせた料理になりがちだが、そんな時、自分の取り皿にこの調味料を加えるだけで、いつもの料理が引き締まり、旬を感じられる。「最後まで美味しく味わう手伝えたい」と話す増本さんの、こころを感じた。(吉村製菓/会社員)



## 公式ホームページでの発信

### 2050 MAGAZINE

<https://doyoukyoto2050.city.kyoto.lg.jp/>

- ・京都発脱炭素ライフスタイルのビジョン、アクション、プロジェクトや、イベント情報、インタビュー記事の掲載など
- ・SNS (Instagram、Facebook、Twitter、Spotify)
- ・閲覧数 52,000回 ※令和5年2月末時点



# 今後の検討課題

## 回収BOXの設置拡大

回収場所拡大に向けて、運搬及び保管方法の調整や、設置協力事業者の募集、市関連施設への設置検討を行う。



国内衣服のリサイクル

## リサイクル技術を持つ協力事業者の参画拡大

素材として再利用して製品化できるリサイクル技術を持つ協力事業者をさらに増やしていく必要がある。

## 出口の透明性確保

国内リサイクルルートが多様化等を目指す。  
また、海外輸出後の活用について透明性を確保する必要がある。





DO YOU KYOTO?

2050

ゼロ

ゼロ

変わろう、今。変えよう、未来。

